

教員養成大学における障害学生支援—卒業生当事者の提言から成果と課題を考える—

企画者	岩田 吉生 青柳 まゆみ, 相羽 大輔 (愛知教育大学)
司会者	青柳 まゆみ (愛知教育大学)
話題提供者	原 和大 (愛知県立岡崎聾学校)
	田中 宏史 (豊橋市役所)
	溝上 弥生 (愛知県立名古屋盲学校)
指定討論者	井坂 行男 (大阪教育大学)
	青柳 まゆみ (愛知教育大学)

KEY WORDS: 教員養成大学, 障害学生支援, キャリア支援

【企画趣旨】

現在、北海道教育大学 (H)、愛知教育大学 (A)、東京学芸大学 (T)、大阪教育大学 (O) では、「HATO プロジェクト」(大学間連携による教員養成の高度化支援事業)を進めており、このうち「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」では、国内の教員養成大学に「大学における特別支援教育のモデル」を発信することを目的として研究を進めている。

2016 (平成 28) 年 4 月の「障害者差別解消法」施行により、教員養成大学では、教職を目指す障害のある学生に高度な専門性を身に付けさせるための指導においてどのような合理的配慮が必要であるかを改めて検討し実践することが、急務の課題となっている。このような中、HATO プロジェクトでは、教員志望の障害学生支援の充実を目的として、『教員養成大学における障害学生支援ブックレット』を作成した。本書は全国の大学に配布し、障害学生支援担当者、授業担当教員等に合理的配慮の考え方や具体的な支援方法等を提供することを目指している。

本シンポジウムは、ブックレット第三章の内容を共有・発展させることを目的としており、具体的には、教員免許状を取得して卒業した障害のある当事者が、それぞれの学生時代の経験を踏まえて障害学生支援に対する期待や課題等を提案する。それらの提言から、教員志望の障害学生に対する指導の在り方とその可能性について検討することを目的とする。

【話題提供の要旨】

1. 教員養成大学における聴覚障害学生支援 (原 和大)

(1) 支援の幅を広げるために

講義や実技、実習における情報保障の充実を図ることはもちろんだが、大学の正規のカリキュラムではないボランティア活動や、教員採用試験に向けた集団討議の練習などにおいても支援を受けられるようにすることが望ましい。それが、教員としての資質を高めることにつながり、合理的配慮の良きモデルにもなる。

(2) 支援内容の充実を図るために

ICT 技術の進歩に伴い遠隔情報保障のシステム導入など支援方法が発展している。その中で、当事者と支援者が互いに見えない状態になっているということ、大学側が用意した支援に当事者が受け身で従うことなどが浮き彫りになっている。互いに意見を出し合い、当事者の学生が主体となって動く経験こそが、卒業後の自分の力が発揮できる環境を整えていく原動力となる。支援体制・内容に高い意識をもち、関係職員や支援者らとの協力関係を築いていくなど、大学でしかできないことを考えていただきたい。

2. 教員養成大学における肢体不自由学生のキャリア支援

(田中 宏史)

(1) 相談体制の仕組みづくり

肢体不自由学生等をはじめとして、同じ障害のある当事者と繋がれる機会は限られている。大学が入学希望者・在学生・卒業生

を含めた相談体制の仕組みを作ることで、当事者の学生の不安解消、将来のモデル作りなどに寄与すると考える。

(2) 幅広い分野の就職情報の提供

教員養成系大学では、教員採用試験に関する情報は多くあるが、それ以外の情報(民間企業・公務員など)が少ない。障害のある人の就職事情は、今もおおしいことから、在学中のアルバイトも含め、幅広い分野の就職情報の提供が求められている。「障害のある人の支援がしたい」との思いから教員を目指したが、就職につながらないのであれば、別の道を考えなければならない。教員志望の夢の実現に向けた支援はもちろんのこと、障害学生が別の進路を選択するための支援も充実させていただきたい。

3. 視覚特別支援学校生徒の進路指導 (溝上 弥生)

在学中は、大学がボランティア学生を募集して組織してくれた対面朗読グループによる支援がありがたかった。今の職場でも、実習教員による支援を受けられる時間が週に 2・3 時間割り当てられているが、その時間の使い方や支援者との円滑なコミュニケーションなどには、大学で受けた支援の経験が生かされている。

盲学校生徒の傾向として、狭い世界で生きているために絶対的な経験値が少ない、決められた人間関係でのコミュニケーションしかとれない、手厚い指導による受け身の姿勢等が顕著である。大学で勉強するからには、自分が学習しやすい環境を作るために必要な支援を要望しなければならないが、一方で、本人が盲学校以外の場所に適応していく工夫と努力も必要であると考えて、生徒の指導にあたっている。

また、大学受験希望の生徒には模試を受けさせ、本人と保護者に客観的学力を知ってもらいたい。通常校では当たり前のことが、地方の盲学校ではなかなか行えていないのが現状であると思う。

【指定討論の要旨】(井坂行男・青柳まゆみ)

2016 年 4 月に文部科学省が公表した「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第二次まとめ)」では、組織的な障害学生支援に一定の進捗が見られるとした上で、「就職支援」「社会で活躍する障害者」「ネットワーク作り」といったキーワードを掲げて、より充実した支援体制の構築を目指そうとしている。障害のある学生は、社会への出口である大学でどのような支援を受け、そこから何を学ぶべきか。教員養成大学のカリキュラムやキャリア支援における合理的配慮として、今後どのような内容が求められていくのか。卒業生からの提言を基に議論を深め、課題を探りたい。

(注) 本研究は、文部科学省国立大学改革強化推進補助金「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築—教育ルネッサンス・HATO プロジェクト—」の助成を得ている。
(IWATA Yoshinari, AOYAGI Mayumi, AIBA Daisuke, HARA Kazuhiro, TANAKA Hiroshi, MIZOGAMI Yayoi, ISAKA Yukio)